

熊本市 感染症発生動向調査 速報

身の回りの衛生管理について

被災地では、さまざまな要因により衛生環境が悪化しやすくなっています。避難所にいらっしゃる方に限らず、自宅の片付けの際や、派遣先で復旧活動をされる際も、以下の点に注意して、感染症や食中毒の予防に努めましょう。

○人の多く集まる場所では、風邪や溶連菌などの呼吸器感染症、下痢や腹痛を起こす消化器感染症などが流行しやすくなります。こまめな手洗いや、マスクの着用を心がけましょう。

○がれきの撤去などでけがをした場合には、そこから破傷風に感染するおそれがあります。作業をおこなう際は、長袖・長ズボンの着用、厚手のゴム手袋をはめる、厚底の靴を履くなどしてけがを防ぎ、もしもけがをしてしまった際には、土などで汚れた傷を放置せず、手当を受けるようにしましょう。

○トイレ使用後は、流水が利用できるときは手指を流水・石けんで洗えるようにし、消毒を励行しましょう。水が使えない場合は、擦り込み式エタノール剤を使用したり、ゴミ箱を設置してウェットティッシュを活用するなど、手をきれいにする手段を確保しましょう。

○夏に向けて気温が上がり始める時期から、食中毒が起こりやすくなります。食品の取り扱いには十分な注意が必要です。調理前の手指の消毒を徹底する、生ものはなるべく避ける、調理したものは早めに食べるなど、食品の衛生管理をしっかりとこなしてください。

○下痢や嘔吐物の処理は、ノロウイルスなどの感染対策のため、その都度適切に行うことが大切です。感染の拡大を防ぐために、下痢や嘔吐物を片付ける際は、直接、それらに手を触れないようにしましょう。

汚染された場所の消毒には次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)が有効です。家庭用塩素系漂白剤の濃度は5～6%ですので、以下を目安に消毒液をつくってください。

- 吐いた物・便の処理(0.1%、濃い) : 水1リットルに対し、家庭用塩素系漂白剤をペットボトルのキャップ 約4杯
- ドアノブや手すり、便座の拭取り(0.02%、薄い) : 水1リットルに対し、家庭用塩素系漂白剤をペットボトルのキャップ 約1杯

期 間		平成28年 第17週		平成28年 第18週	
		4/25～5/1		5/2～5/8	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		16	0.67	8	0.33
RSウイルス感染症		0	0.00	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.33	5	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12	0.80	14	0.93
感染性胃腸炎		40	2.67	38	2.53
水痘(みずぼうそう)		4	0.27	6	0.40
手足口病		1	0.07	0	0.00
伝染性紅斑(りんご病)		4	0.27	12	0.80
突発性発しん		9	0.60	8	0.53
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	2	0.13
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		7	0.47	7	0.47
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		16	3.20	14	2.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		3	0.60	3	0.60
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		3	0.60	2	0.40